

総合理工学インスティテュート

学部基礎情報

【ディプロマ・ポリシー】
サステナブルなグローバル社会を支える理工学分野の実践知と実行力を有し、グローバル社会でリーダーとして活躍できる高度技術者・研究者としてふさわしい人材に学位を授与する。所定の単位を取得し、修士論文または博士論文を提出、審査に合格することを修了要件とする。
【カリキュラム・ポリシー】
理工系研究科（情報科学または理工学）の各専攻専門領域の教育プログラムと研究科・専攻横断的なフィールドの教育プログラムを統合し、深い専門性と幅広い問題解決能力を身につけることを可能とするカリキュラムを提供する。グローバルな研究開発分野のニーズに対応する実践知の涵養を目指すとともに、ブリッジエンジニアに求められる日本語コミュニケーション能力の基礎を教授する。
【アドミッション・ポリシー】
グローバル社会において総合理工学分野のリーダーとして活躍する意欲に溢れる学生を広く受け入れる。英語による講義でプログラムが組まれているため日本語能力は要求しないが、日本語運用能力があればさらに幅広い学びが可能となる。入学者はあらかじめ受け入れ担当教員を決め研究計画を提出し、学識審査を経て入学が許可される。

I 2021 年度 大学評価委員会の評価結果への対応

【2021 年度大学評価結果総評】（参考）
IIST は 2016 年以来、理工学・情報科学両研究科との密接な連携の下でグローバル人材育成が進められ、短期間のうちに修了生を輩出するまでに進捗していることは高く評価できる。昨年度より新規フィールドとして IR と DS を開設した点は時宜を得ており、学生の受け入れ実績も高く評価される。二度にわたるベトナム・チュニジアとのウェブ形式コロキウムの取り組みは高く評価され、今後は水平展開も含めて持続的に発展することが期待される。IIST 在学生の研究業績は 133 件の学術論文発表など高い水準にある。修了生はまだ少数であるため、修了後のキャリア追跡調査をしばらく継続して、学生のキャリア志向とグローバル人材育成プログラムとの整合性を検証することが望まれる。一方、IIST 専修生だけではなく IIST プログラムを履修した理工学・情報科学研究科の大学院生のグローバル度を計測・評価することも望ましい。外国人留学生の場合には修了後に IIST との関係が希薄になることが懸念されるため、IIST-Alumni を組織化し IIST への継続的支援体制を構築すれば、人的な国際ネットワークを維持しグローバル人材を継続的に育成できる可能性がある。DS フィールドへの学生入学と教育は今後の継続的課題であり何らかの対策を講ずることが必要である。いずれの研究フィールドについても、より多くの学生を集め海外組織とのネットワークを構築するためには、URL の整備や多角的な広報を通して IIST の実像を可視化し学内外に周知することが何よりも重要である。残念ながら現状のままでは URL から IIST を理解することは難しい。既存二研究科の教育研究活動、教育組織などとリンクした URL コンテンツを整備すること、コロキウムなど IIST 独自の取り組みを公開アーカイブ化して URL にアップロードすること、などは現実的で早急に実現できる整備内容である。 IIST の設立経緯を勘案すると、今後しばらくは理工学・情報科学分野を中心に IR と DS の研究教育を進めることとなるが、IR についてはさらに生命科学へ展開する可能性があり、DS は全文理科学分野に軸足を持つフィールドである。中長期的には学内の教育研究資源を利用した総合大学として IIST 研究フィールドの水平展開も今後の戦略に位置づける余地があり、今後に期待したい。
【2021 年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】
修了生のキャリア追跡と IIST-Alumni の組織化に対しては、2021 年度より実施している在校生に対する進路希望アンケートと IIST 卒業生と在校生の意見交換交流会をさらに充実させ、キャリアセンターとの連携による組織的なキャリア支援の仕組みを検討する。DS フィールドの再編に関しては、潜在的に DS を研究している教員も多いため、横断的な連携を深めることにより、再編の足掛かりとする。広報の充実も URL コンテンツの整備も途上である（2022 年 2 月ホームページリニューアル）のでさらなる充実が可能であると考えている。

【2021 年度大学評価委員会の評価結果への対応状況の評価】

IIST は情報科学研究科、理工学研究科の共同で英語による学位授与を行っており、グローバル人材の育成に大きく貢

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注 3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた。B：改善することができなかった。」を意味する。

献している。2016 年 9 月の開設から少しずつ修了生が増えてきたこともあり、この時期に在校生に対する進路希望アンケート、卒業生と在校生の意見交換交流会といった学生のキャリア志向とグローバル人材育成プログラムとの整合性をとるための取り組みを開始したことは評価できる。また、海外に向けての広報が課題であったが、ホームページがリニューアルされ、IIST の全体像を紹介するプロモーションビデオが公開されたことは高く評価できる。また、ニュースレターの発信を行っていることも高く評価できる。今後のさらなる Web コンテンツの拡充に期待したい。データサイエンスフィールドおよびインテリジェントロボティクスの再編については、ワークショップの開催などで研究している教員同士の連携を図ろうとしていることは評価できる。

II 自己点検・評価

1 理念・目的

(1) 点検・評価項目における現状

1.1 大学の理念・目的を適切に設定しているか。また、それを踏まえ、学部・研究科の目的を適切に設定しているか。

1.1①研究科（専攻）の理念・目的は大学の理念・目的を踏まえて設定されていますか。 **新規**

はい

1.1②理念・目的の適切性の検証プロセスを具体的に説明してください。 **新規**

※検証を行う組織（教授会や各種委員会等）や検証の時期等、具体的な検証プロセスを記入。

情報科学研究科・理工学研究科の記述参照。

1.2 大学の理念・目的及び学部・研究科等の目的を学則又はこれに準ずる規則等に適切に明示し、教職員及び学生に周知し、社会に対して公表しているか。

1.2①研究科（専攻）の理念・目的は学則又はこれに準ずる規則等に明示していますか。 **新規**

はい

1.2②研究科（専攻）の理念・目的を教職員及び学生に周知し、社会に対して公表していますか。 **新規**

はい

(2) 長所・特色

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、取り組み内容から「長所」や「特色」として特記すべき事項を記入。なお、現在「長所」や「特色」として特記すべき事項がなかった場合は、今後さらに「長所」や「特色」とする取り組み等を向上させていくために課題と考えられる点やその対応計画を記入していただく等できる限り記入をしてください。

内容

情報科学研究科・理工学研究科の記述参照。

(3) 課題・問題点

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、改善を要すると判断される「課題・問題点」として特記すべき事項を記入。なお、「課題・問題点」に対する改善計画がある場合には、その具体的な計画（既に実施している場合にはその進捗状況も含めて）をあわせて記入してください。「課題・問題点」を認識し改善につなげるためにできる限り記入をしてください。

内容

【理念・目的の評価】

IIST 自体の理念は存在しないが、IIST を構成する教員の所属する理工学研究科では「自己点検評価」、「年度目標」策定時に専攻主任会議で、情報科学研究科においては質保障委員会を中心に、それぞれの研究科の理念の検証が定期的に行われていることが確認できた。

2 内部質保証

(1) 点検・評価項目における現状

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた。B：改善することができなかった。」を意味する。

2.1 内部質保証システム（質保証委員会）を適切に機能させているか。

2.1①質保証活動に関する各種委員会（質保証委員会等）は適切に活動していますか。新規

いいえ
【2021 年度質保証委員会の構成、開催日、議題等】※箇条書きで記入。
IIST には質保証委員会は存在しない。

2.1②質保証委員会等の内部質保証推進組織は、COVID-19 への対応・対策の措置を講じるにあたってどのような役割を果たしましたか。新規

※取り組みの概要を記入。
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。
特になし。

（2）長所・特色

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、取り組み内容から「長所」や「特色」として特記すべき事項を記入。なお、現在「長所」や「特色」として特記すべき事項がなかった場合は、今後さらに「長所」や「特色」とする取り組み等を向上させていくために課題と考えられる点やその対応計画を記入していただく等できる限り記入をしてください。

内容

（3）課題・問題点

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、改善を要すると判断される「課題・問題点」として特記すべき事項を記入。なお、「課題・問題点」に対する改善計画がある場合には、その具体的な計画（既に実施している場合にはその進捗状況も含めて）をあわせて記入してください。「課題・問題点」を認識し改善につなげるためにできる限り記入をしてください。

内容

【内部質保証の評価】

IIST に質保証委員会は存在しないが、IIST を構成する教員の所属する理工学研究科、情報科学研究科において、それぞれ質保証委員会が組織され、適切に活動が行われていることが確認できた。

3 教育課程・学習成果

（1）点検・評価項目における現状

3.1 授与する学位ごとに、学位授与方針を定め、公表しているか。

3.1①研究科（専攻）として修得すべき学習成果、その達成のための諸要件（修了要件）を明示した学位授与方針を設定していますか。新規

はい

3.2 授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。

3.2①学生に期待する学習成果の達成を可能とするための教育課程の編成・実施方針を設定していますか。新規

はい

3.2②教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針を周知・公表していますか。新規

はい
【根拠資料】※冊子名称やホームページURL等。
情報科学研究科・理工学研究科の記述参照。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた。B：改善することができなかった。」を意味する。

3. 2③教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針の適切性と関連性の検証プロセスを具体的に説明してください。

新規

A : 従来通り効果的に取り組むことができた

※検証を行う組織（教授会や各種委員会等）や検証の時期等、検証プロセスを記入。

情報科学研究科・理工学研究科の記述参照。

【2021 年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

特になし。

3. 3 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。

3. 3①修士課程においてコースワーク、リサーチワークを適切に組み合わせ、教育を行っていますか。2021 年度 1. 1①に対応

A : 従来通り効果的に取り組むことができた

※コースワーク、リサーチワークを組み合わせた教育課程の概要を記入。

情報科学研究科・理工学研究科の記述参照。

【2021 年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

特になし。

3. 3②博士後期課程において授業科目を単位化し、修了要件としていますか。2021 年度 1. 1②に対応

はい

【根拠資料】※「はい」を選択した場合に単位化及び修了要件として設定されていることが確認できる資料を記入。

情報科学研究科・理工学研究科の記述参照。

3. 3③博士後期課程においてコースワーク、リサーチワークを適切に組み合わせ、教育を行っていますか。2021 年度 1. 1③に対応

対応

A : 従来通り効果的に取り組むことができた

※コースワーク、リサーチワークを組み合わせた教育課程の概要を記入。

情報科学研究科・理工学研究科の記述参照。

【2021 年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

特になし。

3. 3④専門分野の高度化に対応した教育内容を提供していますか。2021 年度 1. 1④に対応

A : 従来通り効果的に取り組むことができた

※学生に提供されている専門分野の高度化に対応した教育に関し、どのような教育内容が提供されているか概要を記入。

【修士・博士】

インテリジェントロボティクス、データサイエンス分野の学生受け入れ実績を積むことを優先することとし、具体的なフィールドの新設は受け入れ実績を考慮に入れて検討することとした。

【博士】

【2021 年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注 3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた、B：改善することができなかった。」を意味する。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。
特になし。

3.3⑤大学院教育のグローバル化推進のための取り組みをしていますか。2021年度1.1⑤に対応

B：改善することができなかった
※大学院教育のグローバル化推進のために行っている取り組みの概要を記入。
【修士・博士】
2020年度に行われたコロキウムは2021年度には実施できなかった。2022年度からのIIST新任教員を中心としたウェビナー形式のワークショップ等の開催を検討する。
【博士】
【2021年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。
特になし。

3.4 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。

3.4①学生の履修指導を適切に行っていますか。2021年度1.2①に対応

A：従来通り効果的に取り組むことができた
【履修指導の体制および方法】※箇条書きで記入。
【修士】
情報科学研究科・理工学研究科の記述参照。
【博士】
情報科学研究科・理工学研究科の記述参照。
【2021年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。
特になし。

3.4②研究科（専攻）として研究指導計画を書面で作成し、あらかじめ学生が知ることのできる状態にしていますか。2021年度1.2②に対応

はい
※ここでの「研究指導計画」とは、事務手続きのスケジュールやシラバス等の個別教員の指導計画を指すのではなく、研究科としての研究指導体制及び研究指導スケジュールをまとめたものを指します（学位取得までのロードマップの明示等）。また、「あらかじめ学生が知ることの状態」とは、HPや要項への掲載、ガイダンスでの配布等が考えられます。
【修士・博士】
ガイダンス時、学位取得までのロードマップを含む研究指導スケジュールを英語で伝えている。
【博士】
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。
根拠資料 1_a)・b) 2021年度ガイダンスレジュメ

3.4③研究指導計画に基づく研究指導、学位論文指導を行っていますか。2021年度1.2③に対応

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。
 ※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ
 ※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた、B：改善することができなかった。」を意味する。

はい
※組織的な研究指導、学位論文指導の概要を記入。 【修士】 情報科学研究科・理工学研究科の記述参照。
【博士】 情報科学研究科・理工学研究科の記述参照。
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。 特になし。

3.4④シラバスが適切に作成されているかの検証を行っていますか。新規

はい
【検証体制及び方法】※箇条書きで記入（取組例：執行部（〇〇委員会）による全シラバスチェック等）。 IIST 担当教員の第三者による全シラバスチェック。
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。 根拠資料 2_2022 年度 シラバスの第三者確認について（報告）

3.4⑤授業がシラバスに沿って行われているかの検証を行っていますか。新規

いいえ
【検証体制及び方法】※箇条書きで記入（取組例：後シラバスの作成、相互授業参観、アンケート等）。 現在、授業がシラバスに沿っているかの検証は行っていない。
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。 特になし。

3.4⑥通常の教育課程や教育方法に加え、COVID-19 への対応・対策として、教育内容、教育方法、成績評価等の一連の教育活動において工夫を講じていますか。行っている場合はその内容と教育活動の効果についても教えてください。2021 年度 1.2④に対応

※取り組みの概要を記入。 情報科学研究科・理工学研究科の記述参照。 【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。 特になし。

3.5 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。

3.5①成績評価と単位認定の適切性を確認していますか。2021 年度 1.3①に対応

A： 従来通り効果的に取り組むことができた
【確認体制及び方法】※成績評価と単位認定の確認体制及び方法を記入。 【修士】 情報科学研究科・理工学研究科の記述参照。 【博士】 情報科学研究科・理工学研究科の記述参照。 【2021 年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。 特になし。

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注 3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた。B：改善することができなかった。」を意味する。

3.5②学位論文審査基準を明らかにし、あらかじめ学生が知ることのできる状態にしていますか。2021年度1.3②に対応

はい
※学位論文審査基準の名称及び明示方法を記入。 【修士】 情報科学研究科・理工学研究科の記述参照。
【博士】 情報科学研究科・理工学研究科の記述参照。
【根拠資料】※学位論文審査基準にあたる文書の名称を記入。また、冊子等に掲載し公表している場合にはその名称を記入。

3.5③学位授与状況（学位授与者数・学位授与率・学位取得までの年限等）を把握していますか。2021年度1.3③に対応

はい
※データの把握主体・把握方法、データの種類等を記入。 情報科学研究科・理工学研究科の記述参照。
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。 特になし。

3.5④学位の水準を保つための取り組みを行っていますか。2021年度1.3④に対応

A： 従来通り効果的に取り組むことができた
※取り組みの概要を記入。 【修士】 情報科学研究科・理工学研究科の記述参照。
【博士】 情報科学研究科・理工学研究科の記述参照。
【2021年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。 特になし。

3.5⑤学位授与に係る責任体制及び手続を明らかにし、適切な学位の授与が行われていますか。2021年度1.3⑤に対応

A： 従来通り効果的に取り組むことができた
※責任体制および手続き等の概要を記入。ただし、博士については、学位規則のとおりに行っている場合には概要の記入は不要とし、「学位規則のとおり」と記入してください。 【修士】 情報科学研究科・理工学研究科の記述参照。
【博士】 情報科学研究科・理工学研究科の記述参照。
【2021年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。 特になし。

3.5⑥学生の就職・進学状況を研究科（専攻）単位で把握していますか。2021年度1.3⑥に対応

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。
 ※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ
 ※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた。B：改善することができなかった。」を意味する。

はい
※データの把握主体・把握方法、データの種類等を記入。
修了生に対して就職・進学状況の調査、在学生については修了後の進路希望調査を実施した。その結果 IIST 生は研究指向が強く博士後期課程修了の学生については大学、研究機関、修士課程修了者については博士後期課程進学者が多いことが示された。
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。
根拠資料 3_a) _修了後連絡先・進路先に関するアンケート調査結果報告
根拠資料 3_b) _2021 年度 IIST 在学生の修了後の進路希望調査

3.6 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。

3.6①分野の特性に応じた学習成果を測定するための指標の適切な設定または取り組みが行われていますか。2021 年度 1.4①に対応

A : 従来通り効果的に取り組むことができた
※取り組みの概要を記入。
【修士】
情報科学研究科・理工学研究科の記述参照。
【博士】
情報科学研究科・理工学研究科の記述参照。
【2021 年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。
特になし。

3.6②具体的な学習成果を把握・評価するための方法を導入または取り組みが行われていますか。2021 年度 1.4②に対応

A : 従来通り効果的に取り組むことができた
※取り組みの概要を記入。取り組み例：アセスメント・テスト、ルーブリックを活用した測定、学修成果の測定を目的とした学生調査、卒業生・就職先への意見聴取、習熟度達成テストや大学評価室卒業生アンケートの活用状況等。
【修士・博士】
IIST 在学生の発表論文リストを作成、累積で 164 件のジャーナル 論文、学会発表を確認した。
【2021 年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。
根拠資料 4_発表論文リスト

3.7 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

3.7①学習成果を定期的に検証し、その結果をもとに教育課程およびその内容、方法の改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。2021 年度 1.5①に対応

A : 従来通り効果的に取り組むことができた
※検証体制及び方法、改善・向上に向けた取り組みの概要を記入。
【修士】
情報科学研究科・理工学研究科の記述参照。
【博士】
情報科学研究科・理工学研究科の記述参照。
【2021 年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注 3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた。B：改善することができなかった。」を意味する。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。
特になし。

3.7②学生による授業改善アンケート結果を組織的に利用していますか。2021 年度 1.5②に対応

A : 従来通り効果的に取り組むことができた
【利用方法】※取り組みの概要を記入。
2019 年度より、今後授業改善アンケートを実施し IIST 運営委員会で結果を共有し改善に向けた取り組みを行うことと定めた。9 月入学のため、春学期修了後次回アンケートを実施することとした。
【2021 年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。
特になし。

(2) 長所・特色

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、取り組み内容から「長所」や「特色」として特記すべき事項を記入。なお、現在「長所」や「特色」として特記すべき事項がなかった場合は、今後さらに「長所」や「特色」とする取り組み等を向上させていくために課題と考えられる点やその対応計画を記入していただく等できる限り記入をしてください。

内容

(3) 課題・問題点

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、改善を要すると判断される「課題・問題点」として特記すべき事項を記入。なお、「課題・問題点」に対する改善計画がある場合には、その具体的な計画（既に実施している場合にはその進捗状況も含めて）をあわせて記入してください。「課題・問題点」を認識し改善につなげるためにできる限り記入をしてください。

内容

【教育課程・学習成果の評価】

<①方針の設定に関すること (3.1~3.2) >

理工学研究科、情報科学研究科においては、適切に学位授与方針が設定されている。これらの研究科では、質保証委員会、専攻主任会議において教育目標、学位授与方針、教育課程等について議論が行われていることが確認できた。

<②教育課程・教育内容に関すること (3.3) >

IIST は英語による学位授与を行っており、積極的にグローバル人材の育成に取り組んでいる。コロナ禍で入国制限がある中でも一定数の入学者を確保できていることは高く評価できる。情報科学研究科で行われている中国模範的ソフトウェア学院のダブルディグリープログラム修了生が、IIST において博士課程を修了するといった成果は高く評価でき、順調にグローバル人材の育成を推進できていることがわかる。重点分野であるインテリジェントロボティクス分野は複数名の学生を受け入れられているが、データサイエンスを直接研究している学生がいないという報告があった。2021 年度に例年行っていたコロキウムを実施できなかったのは残念であるが、「検討中」とあった IIST 新任教員を中心としたワークショップ等研究者同士が相互に刺激を与え合えるような場を設けていくことが望まれる。

<③教育方法に関すること (3.4) >

ガイダンス時に学位取得までのロードマップを含む研究指導スケジュールを英語で伝えていることから、学生の履修指導については問題なく適切に行われていることがわかる。シラバスについては成績評価の方法、基準を明示しており、IIST 教員による全シラバスチェックが行われており、正しい手順でシラバスが作成されていることがわかる。

<④学習成果・教育改善に関すること (3.5~3.7) >

IIST は在学生の発表論文リストを作成しており、累計で 164 件のジャーナル論文、学会発表があることは高く評価で

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注 3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S」：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた。B：改善することができなかった。」を意味する。

きる。また、授業改善アンケートについては、2019 年度から実施されており、IIST 運営委員会で結果を共有していることは評価できる。積極的にアンケート結果を元に授業の改善に繋げてもらいたい。

4 学生の受け入れ

(1) 点検・評価項目における現状

4.1 学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。

4.1①求める学生像や修得しておくべき知識等の内容・水準等を明らかにした学生の受け入れ方針を設定していますか。新規

はい

4.2 学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。

4.2①学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や体制をどのように適切に整備していますか。また、入学者選抜をどのように公正に実施していますか。新規

A： 従来通り効果的に取り組むことができた

※取り組み概要を記入。

出願前に希望学生と指導教員とのマッチング面接を行なっている。

2022 年度より各専攻ごと複数教員による面接試験の実施。

【2021 年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

根拠資料 5_a) 入試要項

根拠資料 5-b) マッチング資料

4.3 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

4.3①定員の超過・未充足に対し適切に対応していますか。新規

はい

※入学定員・収容定員の充足状況をどのように捉えているかを記入。

2016 年度発足時から 2 年間は定員の 40%であったが、2018 年度から 2 年間はほぼ定員を充足、2020 年度はコロナのため 2/3 の充足率、2021, 2022 年度はそれぞれ 15. 16 と定員数を充足している。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

根拠資料 6_入学者数

4.4 学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

4.4①学生募集および入学者選抜の結果について定期的に検証を行い、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。新規

A： 従来通り効果的に取り組むことができた

※検証体制及び検証方法、改善・向上に向けた取り組みの概要を記入。

・志望学生の国、大学を調査し、志望が多い国（中国、ベトナム）、大学（西南科技大、ベトナム国家大学ホーチミン市情報技術大学）を中心に広報を行う。

・英語スコアの提出を免除していた指定校からの学生の英語能力が低いこともあり、指定校を廃止し、すべての受験生に英語スコアの提出を義務化した。

【2021 年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注 3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた。B：改善することができなかった。」を意味する。

根拠資料 6_入学者数

(2) 長所・特色

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、取り組み内容から「長所」や「特色」として特記すべき事項を記入。なお、現在「長所」や「特色」として特記すべき事項がなかった場合は、今後さらに「長所」や「特色」とする取り組み等を向上させていくために課題と考えられる点やその対応計画を記入していただく等できる限り記入をしてください。

内容

(3) 課題・問題点

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、改善を要すると判断される「課題・問題点」として特記すべき事項を記入。なお、「課題・問題点」に対する改善計画がある場合には、その具体的な計画（既に実施している場合にはその進捗状況も含めて）をあわせて記入してください。「課題・問題点」を認識し改善につなげるためにできる限り記入をしてください。

内容
指定校の廃止は受験生の数の低下を招く可能性があるが、英語能力を維持するために廃止に踏み切った。今後の検証が必要である。

【学生の受け入れの評価】

IIST は多くの海外の学生が出願してくるため、マッチングや学生の能力の見極めを怠ると、長い目でみて学生、教員双方にとって不利益となる。その点、IIST は出願前に学生と指導教員とのマッチング面接を行なうとともに、2022 年度より専攻ごとに複数教員による面接試験を行っており、入学者に対して適切な対応を行っていることは高く評価できる。また、学生募集の結果についての検証が行われおり、志望学生の国、大学を調査し、志望が多い国を中心に広報をおこなっていること、水準を落とさないために指定校を廃止しすべての英語スコアの提出を義務付けたのは、優秀な学生を受け入れるための手段として高く評価できる。

5 教員・教員組織

(1) 点検・評価項目における現状

5.1 大学の理念・目的に基づき、大学として求める教員像や各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。

5.1①組織的な教育を実施する上において必要な役割分担、責任の所在をどのように明示していますか。 **新規**

【インスティテュート執行部の構成、インスティテュート内の基幹委員会の名称・役割、責任体制】※箇条書きで記入。
IIST 運営委員長 1 名、運営副委員長 2 名 IIST 運営委員会：IIST に関する人事、授業科目、入学志望者に関する事項を審議する。 責任体制：必要に応じて両研究科教授会においても審議する。
【明示方法】※箇条書きで記入。
委員長は委員の互選。 副委員長は委員長の指名。 副委員長は委員長を補佐、委員長不在時は委員長代行
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。
根拠資料 7_法政大学大学院総合理工学インスティテュート (IIST) 運営委員会規程

5.2 教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。

5.2①研究科（専攻）のカリキュラムにふさわしい教員組織を備えていますか。 **新規**

はい
※カリキュラムとの整合性の観点から教員組織の概要を記入。

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注 3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた。B：改善することができなかった。」を意味する。

9つのフィールドに分類されている授業について、情報科学研究科・理工学研究科の高度な専門性を有する教員が担当している。なお、授業を担当している専攻は下記のとおりである。

1. グローバル情報システムフィールド—情報科学、応用情報工学
2. ユビキタス通信ネットワークシステム—情報科学、応用情報工学、電気電子工学
3. グローバル経営情報システムフィールド—情報科学、システム工学
4. メディア・情報処理フィールド—情報科学、応用情報工学、電気電子工学、システム工学
5. 医療・健康・福祉理工学フィールド—応用情報工学、電気電子工学、生命機能学
6. 先端化学・生命科学フィールド—生命機能学、応用化学
7. フィールド共通科目 コンピュータサイエンス領域—情報科学、応用情報工学、システム工学
8. フィールド共通科目情報理工学基盤領域—情報科学、応用情報工学、システム工学、電気電子工学
9. IIST 共通科目—情報科学

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

根拠資料 8_開講科目一覧

5.3 教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。

5.3①研究科（専攻）内の独自のFD活動は適切に行なわれていますか。2021年度2.1①に対応

A： 従来通り効果的に取り組むことができた

【FD活動を行うための体制】※箇条書きで記入。

情報科学研究科・理工学研究科の記述参照。

【2021年度のFD活動の実績（開催日、場所、テーマ、内容（概要）、参加人数等）】※箇条書きで記入。

【2021年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

特になし。

5.3②研究活動や社会貢献等の諸活動の活性化や資質向上を図るための方策を講じていますか。2021年度2.1②に対応

A： 従来通り効果的に取り組むことができた

※取り組みの概要を記入。

情報科学研究科・理工学研究科の記述参照。

【2021年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

特になし。

（2）長所・特色

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、取り組み内容から「長所」や「特色」として特記すべき事項を記入。なお、現在「長所」や「特色」として特記すべき事項がなかった場合は、今後さらに「長所」や「特色」とする取り組み等を向上させていくために課題と考えられる点やその対応計画を記入していただく等できる限り記入をしてください。

内容

（3）課題・問題点

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、改善を要すると判断される「課題・問題点」として特記すべき事項を記入。なお、「課題・問題点」に対する改善計画がある場合には、その具体的な計画（既に実施している場合にはその進捗状況も含めて）をあわせて記入してください。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた、B：改善することができなかった。」を意味する。

ださい。「課題・問題点」を認識し改善につなげるためにできる限り記入をしてください。

内容

【教員・教員組織の評価】

IIST の 9 つのフィールドに分類されている授業については情報科学研究科・理工学研究科の専門性を有する教員が担当しており、カリキュラムに即した教育体制が取られてことが確認できた。新規専任教員による新しい英語科目も開設されており、英語による講義がより充実したことは評価できる。

6 学生支援

(1) 点検・評価項目における現状

6.1 学生支援に関する大学としての方針に基づき、学生支援の体制は整備されているか。また、学生支援は適切に行われているか。

6.1①研究科（専攻）として外国人留学生への修学支援について適切に対応していますか。 **新規**

A : 従来通り効果的に取り組むことができた
※外国人留学生への修学支援に関する取り組みの概要を記入。
入学前に志望学生と希望教員とのマッチングによる学生と適切な教員を組み合わせる。
【2021 年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。
根拠資料 5-b)_マッチング資料

6.1②研究科（専攻）として学生の生活相談に組織的に対応していますか。 **新規**

A : 従来通り効果的に取り組むことができた
※学生の生活相談に関する取り組みの概要を記入。
IIST 卒業生と在校生の意見交換交流会の開催。
【2021 年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。
根拠資料 9_第 1 回 IIST 修了生と在学生との交流イベントの開催について（ご報告）

6.1③博士後期課程において、将来大学教員になった際に必要なスキルを得られる機会を設定していますか。また当該機会に関する情報を適切に提供していますか。 **新規**

はい
※取り組みの概要を記入。
情報科学研究科・理工学研究科の記述参照。
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。
特になし。

(2) 長所・特色

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、取り組み内容から「長所」や「特色」として特記すべき事項を記入。なお、現在「長所」や「特色」として特記すべき事項がなかった場合は、今後さらに「長所」や「特色」とする取り組み等を向上させていくために課題と考えられる点やその対応計画を記入していただく等できる限り記入をしてください。

内容

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。
 ※注 2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ
 ※注 3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた。B：改善することができなかった。」を意味する。

--

(3) 課題・問題点

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、改善を要すると判断される「課題・問題点」として特記すべき事項を記入。なお、「課題・問題点」に対する改善計画がある場合には、その具体的な計画（既に実施している場合にはその進捗状況も含めて）をあわせて記入してください。「課題・問題点」を認識し改善につなげるためにできる限り記入をしてください。

内容

【学生支援の評価】

IIST は、入学前に志望学生と希望教員とのマッチングを実施しており、このような取り組みは新入学生、教員双方にとっても、入学後のトラブルを減らすという大きなメリットがあるため高く評価できることから、今後も継続してもらいたい。2021 年度から始まった IIST 卒業生と在校生の意見交換会も持続的に発展することが期待される。

7 教育研究等環境

(1) 点検・評価項目における現状

7.1 教育研究を支援する環境や条件を適切に整備し、教育研究活動の促進を図っているか。

7.1①ティーチング・アシスタント (TA)、リサーチ・アシスタント (RA)、技術スタッフ、授業支援アシスタント、ラーニングサポーターなどを配置することによる、教員の教育研究活動を支援する体制は整備されていますか。 **新規**

A : 従来通り効果的に取り組むことができた
※教育研究支援体制の概要を記入。
情報科学研究科・理工学研究科の記述参照。
【2021 年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

7.1②研究科（専攻）として、学生の学習環境や教員の教育研究環境の整備に関して、COVID-19 への対応・対策を行っていますか。行っている場合は、その内容を教えてください。 **新規**

※取り組みの概要を記入。
情報科学研究科・理工学研究科の記述参照。
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

(2) 長所・特色

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、取り組み内容から「長所」や「特色」として特記すべき事項を記入。なお、現在「長所」や「特色」として特記すべき事項がなかった場合は、今後さらに「長所」や「特色」とする取り組み等を向上させていくために課題と考えられる点やその対応計画を記入していただく等できる限り記入をしてください。

内容

(3) 課題・問題点

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、改善を要すると判断される「課題・問題点」として特記すべき事項を記入。なお、「課題・問題点」に対する改善計画がある場合には、その具体的な計画（既に実施している場合にはその進捗状況も含めて）をあわせて記入してください。「課題・問題点」を認識し改善につなげるためにできる限り記入をしてください。

内容

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注 3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S」：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた。B：改善することができなかった。」を意味する。

【教育研究等環境の評価】

理工学研究科、情報科学研究科のそれぞれで充実した TA、RA の仕組みがあるため、IIST の教員はこれらの学生等の支援を受けながら教育研究活動を行えることが確認された。また、COVID-19 への対応としては、対面授業とオンライン授業を組み合わせたハイブリッド型授業が実施され、教室内で学生が密にならないように教室の定員数を減らすなどの対策をとったことが確認できた。

8 社会貢献・社会連携

(1) 点検・評価項目における現状

8.1 社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施しているか。また教育研究成果等を適切に社会に還元しているか。

8.1①学外組織との連携協力による教育研究の推進に関する取り組み及び社会貢献活動を行っていますか。【新規】

B：改善することができなかった

※取り組み概要を記入。

【2021 年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

特になし

(2) 長所・特色

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、取り組み内容から「長所」や「特色」として特記すべき事項を記入。なお、現在「長所」や「特色」として特記すべき事項がなかった場合は、今後さらに「長所」や「特色」とする取り組み等を向上させていくために課題と考えられる点やその対応計画を記入していただく等できる限り記入をしてください。

内容

(3) 課題・問題点

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、改善を要すると判断される「課題・問題点」として特記すべき事項を記入。なお、「課題・問題点」に対する改善計画がある場合には、その具体的な計画（既に実施している場合にはその進捗状況も含めて）をあわせて記入してください。「課題・問題点」を認識し改善につなげるためにできる限り記入をしてください。

内容

【社会貢献・社会連携の評価】

学外組織との連携協力、社会貢献活動については改善されなかったことが報告された。今後、なんらかの活動が行われることを期待する。

9 大学運営・財務

(1) 点検・評価項目における現状

9.1 方針に基づき、学長をはじめとする所要の職を置き、教授会等の組織を設け、これらの権限等を明示しているか。また、それに基づいた適切な大学運営を行っているか。

9.1①運営委員会等の権限や責任を明確にした規程を整備し、規程に則った運営が行われていますか。【新規】

はい

※概要を記入。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた。B：改善することができなかった。」を意味する。

IIST の企画・運営に関する事項を審議するために情報科学研究科と理工学研究科教授会の下に IIST 運営委員会を設置している。IIST に関する次の事項は運営委員会において審議する。
・ IIST の運営管理を担う役割で採用する大学院任期付教員の人事に関する事項 ・ 授業科目の編成及び担当者に関する事項 ・ IIST 指定校の選定に関する事項 ・ 入学志望者に関する事項 ・ 委員長候補者の推薦に関する事項 ・ その他 IIST に関する必要な事項
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。
根拠資料 7_法政大学大学院総合理工学インスティテュート (IIST) 運営委員会規程

(2) 長所・特色

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、取り組み内容から「長所」や「特色」として特記すべき事項を記入。なお、現在「長所」や「特色」として特記すべき事項がなかった場合は、今後さらに「長所」や「特色」とする取り組み等を向上させていくために課題と考えられる点やその対応計画を記入していただく等できる限り記入をしてください。

内容

(3) 課題・問題点

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、改善を要すると判断される「課題・問題点」として特記すべき事項を記入。なお、「課題・問題点」に対する改善計画がある場合には、その具体的な計画（既に実施している場合にはその進捗状況も含めて）をあわせて記入してください。「課題・問題点」を認識し改善につなげるためにできる限り記入をしてください。

内容

【大学運営・財務の評価】

IIST の企画・運営に関する事項を審議するために、情報科学研究科と理工学研究科教授会の下に少人数ながら IIST 運営委員会（IST 運営委員長 1 名、運営副委員長 2 名）が設置されており、法政大学大学院総合理工学インスティテュート（IIST）運営委員会規程のもと IIST に関する人事、授業科目、入学志望者に関する事項を審議する審議されていることが確認された。全ての問題をこの委員会だけで決定するわけではなく、必要に応じて両研究科教授会においても審議するという方針をとっていることから、責任体制に対しても問題なく運営されているものと判断される。

III 2021 年度中期目標・年度目標達成状況報告書

No	評価基準		教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】
1	中期目標	既存の 6 つの横断的学びのフィールド（Global Information Systems, Ubiquitous Network and Communication Systems, Global Business Analysis and Planning, Media and Information Processing, Medical and Health Care System Design, Advanced Bioscience and Chemical Engineering）を見直し、留学生から学びの需要の高い内容を反映させたフィールドを明示的に設けるなど、再編を行う。	
	年度目標	IIST 重点分野であるインテリジェンスロボティクス・データサイエンス分野の受け入れ実績の調査などから両分野における留学生の学びのニーズを調査し、必要な新設科目、専攻横断的な教員の協働等、フィールド新設に向けた準備を進める。	
	達成指標	インテリジェンスロボティクス・データサイエンスフィールドを構成する専攻横断的な教員組織の確定	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	B
	理由	フィールド新設に当たり、インテリジェントロボティクスデータサイエンス分野の学生受け入れ実績を積むことを最優先し、具体的なフィールドはその受け入れ実績を考慮して検	

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注 3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S」：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた。B：改善することができなかった。」を意味する。

			討することになった初年度である。2022 年 3 月現在在校生中、インテリジェントロボティクスを研究している学生 5 名、データサイエンスは直接研究している学生はいないが、潜在的にデータサイエンスを研究している学生は多い。
		改善策	これらの学生の研究分野を広げるとともに、専攻横断的な教員の共同により、新フィールドの開設に向ける。
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】	
2	中期目標	IIST に認められた増コマを有効に活用し、英語科目を充実させる。	
	年度目標	新設を目指す 2 フィールドを念頭に IIST 科目のカリキュラム改編にむけた検討を行う。	
	達成指標	IIST 設置科目の体系化	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	A
		理由	新規専任教員による新しい英語科目が開設され、IIST に認められた増コマの有効活用が可能になった。また、カリキュラム改訂により、英語科目を追加できる仕組みを作り、英語科目がさらに充実した。
		改善策	英語科目の追加できる仕組みを利用して、さらなる充実を目指す。
No	評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】	
3	中期目標	学習成果を学術論文出版、国際会議研究発表などを通じて示す。	
	年度目標	継続して IIST 学生の発表論文リストを作成し学修成果を評価する。また、IIST コロキウムとして IIST 学生の研究成果発表の機会を設ける。	
	達成指標	ジャーナル論文・査読付き国際会議発表件数	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	S
		理由	これまでに引き続き、研究論文数を調査し、2021 年 9 月及び 2022 年 3 月修了者（14 名）の公表論文数 31 件（ジャーナル 8 件、国際会議 23 件）と高水準にあることを確認した。
		改善策	—
No	評価基準	学生の受け入れ	
4	中期目標	研究能力レベルの高い学生を受け入れると共に定員を恒常的に確保する。	
	年度目標	定員充足を達成しつつ、ガイドラインに従い、丁寧な応募前事前マッチングにより優秀な学生を選別し、質の確保をめざす。	
	達成指標	定員充足率、入学後の研究成果	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	A
		理由	定員については、引き続きコロナ禍で、辞退の学生がでるなど、完全充足には至らなかった。また、修士課程から博士課程への内部進学する学生が多く、質の高い学生の確保については達成できている。
		改善策	—
No	評価基準	教員・教員組織	
5	中期目標	英語による講義・研究指導を担う教員の割合を増やす。	
	年度目標	IIST 担当の任期付き教員を採用し、受け入れ可能な留学生数を増加させる。	
	達成指標	英語による講義・研究指導対応教員数	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	B
		理由	新規専任教員による新しい英語科目が開設され、英語科目を追加できる仕組みを新たに作り、英語による講義が充実した。英語による研究指導対応数は増えていないが、受け入れ事務負担を軽減するようにした。
		改善策	英語教育負担の分散化と受け入れ事務負担の軽減化により、研究指導に専念できる環境をさらに整備し、受け入れ教員数の拡充に務める。

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注 3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S」：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた。B：改善することができなかった。」を意味する。

No	評価基準		学生支援
6	中期目標	学内外の奨学金、学内 TA、RA などの経済支援、留学生のニーズにあったキャリア支援を充実させる。	
	年度目標	昨年度実施した、終了後進路調査・進路希望調査にもとづき、キャリアセンターと連携し組織的なキャリア支援の仕組みを検討する。	
	達成指標	進学・就職率	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	B
理由		在校生については進路希望アンケートを行い、IIST 卒業生と在校生の意見交換交流会を開催し、卒業生と在校生の意見交換が可能となった。	
	改善策	アンケート調査や意見交換会の討論をもとに、キャリア支援を再検討する。	
No	評価基準		社会貢献・社会連携
7	中期目標	研究成果のグローバルな発信及び優れたグローバル人材を輩出することにより社会貢献を果たす。	
	年度目標	教育内容・研究指導を充実させ優れたグローバル人材を輩出する。	
	達成指標	刊行・発表論文数、博士進学数 社会のグローバル化を担う人材輩出数	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	A
理由		2022 年度修了生の論文発表数(31 件)、博士受け入れ数 5 名のうち 3 名が内部進学となり、質の高い学生の受け入れに成功している。	
	改善策	－	
【重点目標】			
IIST は 2016 年 9 月に文科省スーパーグローバル大学創生支援を受けて設立された。2023 年度に文科省の財政支援が打ち切りとなるため、現在それ以降継続可能かどうかの検討に入っている。IIST 継続に向けて自己点検評価を踏まえてこれまでの活動を総括することが本年度最重要目標である。			
【目標を達成するための施策等】			
これまでの活動実績を、学生の受け入れ、受け入れ学生の学修成果、修了学生の進学・就職状況、国際貢献の観点から評価を行い、本プログラムが存続する価値があるかについて担当理事も含めて、教学・経営面から総合的に検討する。			
【年度目標達成状況総括】			
IIST は文科省スーパーグローバル大学創生支援（SGU 支援）が 2023 年度で終了するが、これまでの活動実績として、学生の受け入れ、受け入れ学生の学修成果、修了学生の進学・就職状況、国際貢献の観点から本プログラムの今後の存続が認められ、事業継続及び自走化が可能となった。また、それに伴い IIST 専任の教員が SGU 支援後も認められた。			

【2021 年度目標の達成状況に関する大学評価】

IIST の成果が認められ、SGU 支援の終了後も事業継続及び自走化が可能となったことは大変高く評価できる。近年新設された分野の学生数については、インテリジェントロボティクスが 5 人、データサイエンスが 0 人であったとの報告があった。まだ始まってそれほど時間が経っていないため、分野の紹介に力をいれつつも結論を急がず、今後も留学生のニーズを調査し、フィールドの新設、再編を行なっていくことが望まれる。新たな英語科目が開設され、英語科目がさらに充実したことは評価できる。また、研究論文については 14 名の修了者の公表論文数 31 件と高水準であることは高く評価できる。定員については、コロナ禍により海外との往来が難しい中、完全充足には届かないものの健闘しており、博士課程への内部進学が多いことも、高く評価できる。IIST において、グローバルに活躍できる研究者の育成は順調になされているといえる。一方で、経済支援、キャリア支援については、学生の声を聞きながら、今後さらに改善していくことを期待したい。
--

IV 2022 年度中期目標・年度目標

No	評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】
----	------	----------------------------

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注 3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S」：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた。B：改善することができなかった。」を意味する。

1	中期目標	既存の6つの横断的学びのフィールド (Global Information Systems, Ubiquitous Network and Communication Systems, Global Business Analysis and Planning, Media and Information Processing, Medical and Health Care System Design, Advanced Bioscience and Chemical Engineering) を見直し、留学生から学びの需要の高い内容を反映させたフィールドを明示的に設けるなど、再編を行う。
	年度目標	IIST 重点分野であるインテリジェンスロボティクス・データサイエンス分野の受け入れ実績の調査を継続し、両分野における留学生の学びのニーズを調査し、必要な新設科目、専攻横断的な教員の協働等、フィールド新設に向けた準備を進める。
	達成指標	インテリジェントロボティクス、データサイエンスフィールドを構成する専攻横断的な教員組織を確定させる。特に、データサイエンスに関しては潜在的に関連している分野が多いため、それらの関連性を明らかにする。
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】
2	中期目標	IIST に認められた増コマを有効に活用し、英語科目を充実させる。
	年度目標	IIST 設置科目の体系化を検討する。特に、新設を目指す2フィールドのカリキュラムを確定させ、英語科目の充実をはかる。
	達成指標	英語科目を追加できる仕組みの導入により、英語科目の充実度を評価する。
No	評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
3	中期目標	学習成果を学術論文出版、国際会議研究発表などを通じて示す。
	年度目標	継続して IIST 学生の発表論文リストを作成し学修成果を評価する。また、IIST コロキウムとして IIST 学生の研究成果発表の機会を設ける。
	達成指標	ジャーナル論文・査読付き国際会議発表件数
No	評価基準	学生の受け入れ
4	中期目標	研究能力レベルの高い学生を受け入れると共に定員を恒常的に確保する。
	年度目標	定員充足を達成しつつ、ガイドラインに従い、丁寧な応募前事前マッチングにより優秀な学生を選別し、質の確保をめざす。
	達成指標	定員充足率、入学後の研究成果
No	評価基準	教員・教員組織
5	中期目標	英語による講義・研究指導を担う教員の割合を増やす。
	年度目標	IIST 担当の任期付き教員の採用により、他 IIST 教員との連携をはかり、受け入れ可能な留学生数を増加させる。
	達成指標	英語による講義・研究指導対応教員数
No	評価基準	学生支援
6	中期目標	学内外の奨学金、学内 TA、RA などの経済支援、留学生のニーズにあったキャリア支援を充実させる。
	年度目標	2020 年度より実施している修了後進路調査・進路希望調査を充実させ、キャリアセンターと連携し組織的なキャリア支援の仕組みを検討する。
	達成指標	進学・就職率
No	評価基準	社会貢献・社会連携
7	中期目標	研究成果のグローバルな発信及び優れたグローバル人材を輩出することにより社会貢献を果たす。
	年度目標	教育内容・研究指導を充実させ優れたグローバル人材を輩出する。
	達成指標	刊行・発表論文数、博士進学数 社会のグローバル化を担う人材輩出数
【重点目標】		
IIST は 2016 年 9 月のスーパーグローバル大学院創成支援を受けて設立された。この支援が 2023 年度で打ち切りになるが、学生の受け入れ、受け入れ学生の学習成果、修了学生の進学・就職状況、国際貢献の観点からそれ以降の存続が認め		

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注 3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S」：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた。B：改善することができなかった。」を意味する。

られ、IIST 専任教員も認められた。事業継続と自走化のためにこれまでの活動実績と自己点検評価を踏まえて、これまでの活動の総括と新しい施策が本年度の最重点課題である。

【目標を達成するための施策等】

これまでの活動実績を学生の受け入れ、受け入れ学生の学修成果、修了学生の進学・就職状況、国際貢献の観点から再評価を行い、事業継続と自走化を可能とするための方法を教学・経営面の観点から総合的に検討する。

【2022 年度中期目標・年度目標に関する大学評価】

IIST は 2023 年度で SGU 支援が終了するが、それまでの成果が認められ事業継続が決まっている。

自走化を可能とするために、今後も教学・経営面の観点からの総合的な検討は不可欠である。危機意識をもって継続的に検討を行っていることは高く評価できる。教育課程については、今後の新規フィールド開設前に、最近設置したフィールドの学生数を確保しようとする方策が示されているが、IIST の高い水準の研究成果は、学生の興味と研究分野の適合であることもその一因であることから、学生の研究分野を充足していない分野に誘導することのないようにしていく必要がある。また、進学、就職に関しては、より日本社会に還元されるグローバル人材を輩出できるように、より一層の改善が望まれる。

【大学評価総評】

IIST は 2016 年 9 月に SGU 支援を受けて設立され、2023 年度で SGU 支援が終了するが、これまでの短い期間の間に、海外から多くの学生を受け入れ、研究成果発表を活発に行ない、修了生を輩出してきたことは高く評価できる。IIST の学生は、同じ研究科の日本人学生にとっても良い刺激になっており、法政大学のグローバル化に大きく寄与していることは高く評価できる。修士課程から博士課程への進学率は高く、博士受け入れ数 5 名のうち 3 名が IIST の内部進学となっていることから、その向学心の高さが窺える。修了生数は多くないものの、2021 年度から始まった IIST 卒業生と在校生の意見交換会は、キャリアを考える上で学生にとって貴重な機会となるため、持続的に発展することが期待される。世界で活躍するグローバルな人材育成のためには、このような交流会をより充実させることが望ましい。キャリアセンターとの連携による組織的なキャリア支援はまだ検討の段階にあるものの今後も継続していく必要がある。入学する学生の確保については、IIST をどれだけ海外に向けて紹介してきたかにかかっているが、わかりにくいと評価されていた IIST の Web ページがリニューアルされたことにより、この問題はある程度改善されたものと思われる。今後は Web ページ上、学生生活、研究活動について英語の動画コンテンツを充実させていくことが望まれる。

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注 3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた。B：改善することができなかった。」を意味する。